

令和 2 年度 多 摩 区

稲田地区カルテ

川崎市では、すべての市民を対象に、10年、20年先の将来も住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けるために、地域の特徴に応じた地域包括ケアシステムの構築を進めています。

住民の皆様が地域のことを知り、今できることや、これからのように暮らしていきたいかななどを考えるきっかけとして活用いただくため「地区カルテ」を作成しました。



地域に入って活動する職員

こんなときに活用しよう！

見守り活動を
始められないかな

活動を始める前に
仲間と話し合うための
資料が欲しいな



住み始めたこのまちの
ことを知りたいな

どんな人たちが
住んでいるの？
地域の特徴や
雰囲気は？



川崎に
引っ越してきて
地域を知りたい
子育てパパ・ママ

地域の課題を
考えている
町内会・自治会の
人たち

この地域に
高齢者はどのくらい
いるのかな？



川崎に
長く住んでいる
おばあちゃん



地域の活動を
データでわかりやすく
伝えたい職員



この資料は、町内会・自治会を基本とした一定の地区を範囲として、全市を **44 地区** に分け、地区ごとに共通した統計情報などを整理して作成しました。

※地区割りは概ね地区社会福祉協議会・民生委員児童委員協議会の範囲を参考としています。

多摩区 | 稲田地区



エリア

宿河原、堰、長尾



参考)「川崎市統合型地図情報システム(マップスカワサキ)」

① 避難所等の地図

(多摩区版)

避難所や応急給水拠点などを掲載



参考) 川崎市防災マップ
(2019年11月1日現在の情報)

② ガイドマップかわさき

(モバイル端末用)

川崎市の「防災」「くらし」「まちづくり」の情報を案内する地図サイト



③ 多摩区ガイドマップ

区内の地図や見どころなどを掲載



参考) 多摩区ガイドマップ
(令和3年1月現在)

人口などの基本的なデータは？



① 人口・世帯数は？

	人口 実数	世帯数 実数	年少人口 (0～14歳)	生産年齢人口 (15～64歳)	高齢者人口 (65歳以上)	前期高齢者 人口 (65～74歳)	後期高齢者 人口 (75歳以上)
稲田地区	42,457	22,159	4,892	29,342	8,223	4,022	4,201
多摩区	212,740	111,237	23,739	146,723	42,278	20,621	21,657
川崎市	1,521,233	762,487	193,323	1,024,209	303,701	150,196	153,505

※但し、世帯数については単位は世帯

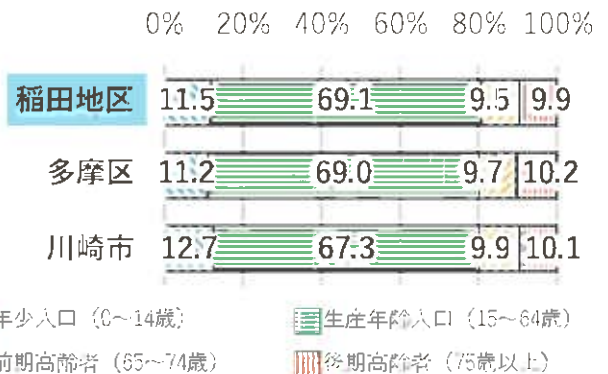
参考) 住民基本台帳 2020年9月末

② 人口・世帯数の変化は？



参考) 住民基本台帳 各年9月末

③ 子ども・高齢者の割合は？

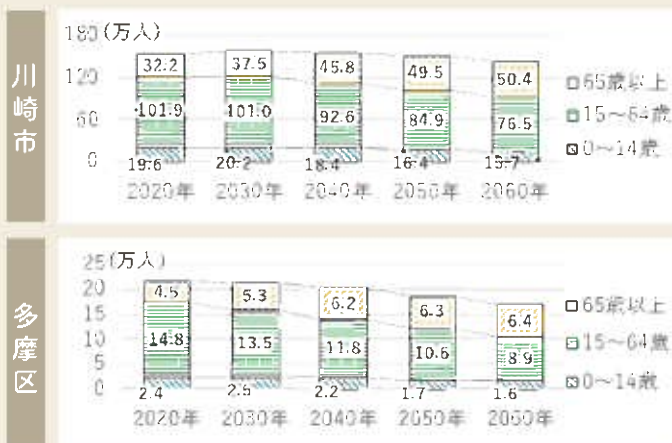


参考) 住民基本台帳 2020年9月末

関連する多摩区のデータ

④ 将来の人口推計は？

総人口のピークは、川崎市は約158.7万人(2030年頃)、多摩区は約21.7万人(2020年頃)と推計されています。



参考) 川崎市総合計画 第2期実施計画の策定に向けた将来人口推計 (2017年)



人が増えている地域は、元気のある地域と見ていいですか？

そういった見方もあるかもしれませんが、一方で、地域の特徴を知るための情報は、統計データだけではありません。生活環境、地域活動、住んでいる人たち、普段の暮らしから得られる実感など様々な要素が関係してきます。

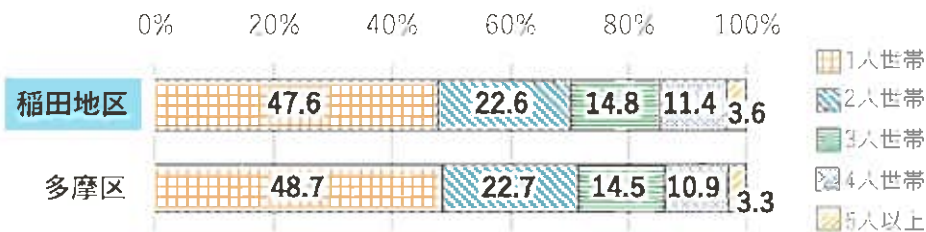


統計データは地域を知るための「手がかりのひとつ」ということですね。若い人の割合、子どもや高齢者の割合なども地域の特徴や潜在的なニーズを把握するための手がかりのひとつになりそうですね。

地域に住む人や建物の傾向は？



① ひとり暮らしが多い？ 家族で暮らす方が多い？

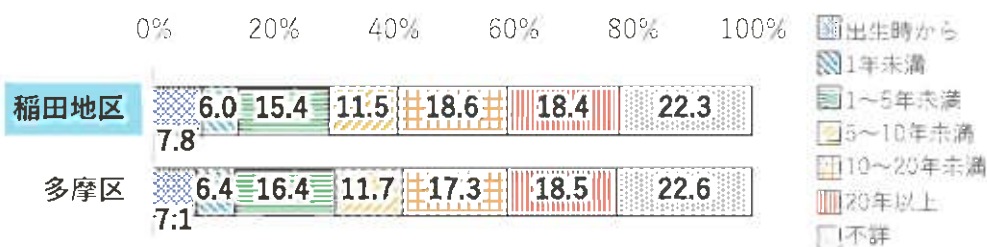


参考) 世帯構成 (一般世帯) の割合 / 国勢調査 平成 27(2015) 年 川崎市の人口 (1) 第 43 表

ひとり暮らしが多い地域と、家族で暮らす方が多い地域では、地域の困りごとでも違うかもしれませんね。



② 長く住む人が多い？ 最近住み始めた人が多い？

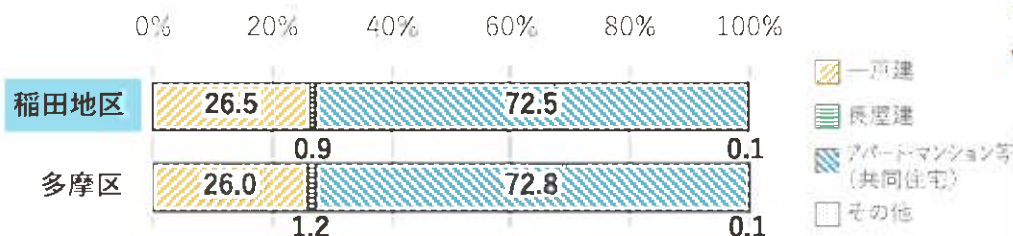


参考) 居住期間別人口割合 / 国勢調査 平成 27(2015) 年 川崎市の人口 (2) 第 14 表

長く住む人が多いほど、きっと顔見知りが多いのよね。いざという時に心強い気がするわ。



③ 一戸建が多い？ アパート・マンション等 (共同住宅) が多い？



参考) 住宅の建て方別世帯割合 / 国勢調査 平成 27(2015) 年 川崎市の人口 (1) 第 46 表

一戸建の住宅が多い地域では、防犯パトロールの取組も大切なのかな。

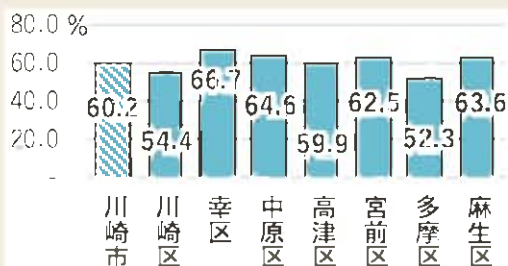


防災訓練の安否確認はマンションでも大切そうだな。エレベーターの閉じ込め救出訓練も大切になりそう。



関連する多摩区のデータ

④ 町内会・自治会の加入状況は？



参考) 川崎市統計書 (令和元年版)
14 教育及び文化 第 21 表 住民組織加入状況

例えば・・・

◆「家族」で「長く」住む方が多い、「一戸建」の多い地域

◆「一人暮らし」で「アパート・マンション等」に住み「短期間」で引っ越してしまう方が多い地域

など、複数の統計データを見ることで、地域の特徴が見えてくるかもしれません。



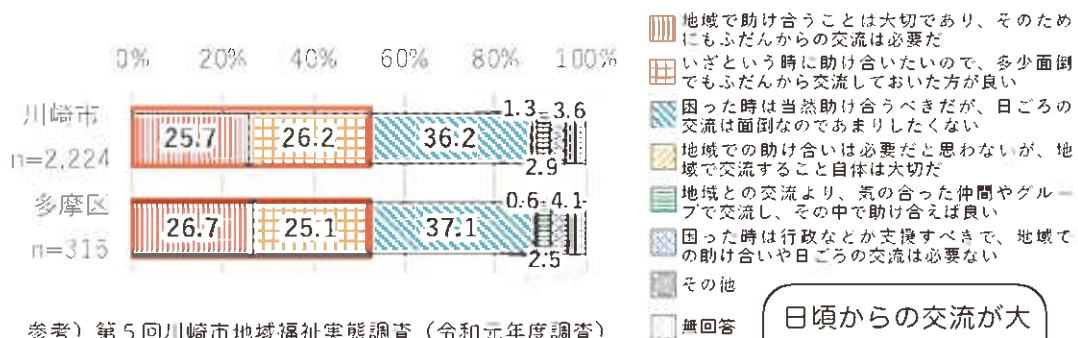
近所づきあい・地域活動等への考えや参加状況は？

市民アンケート等で寄せられたご意見の紹介



◆近所づきあい・地域住民同士の交流の必要性は？（多摩区のデータ）

「地域で助け合うことは大切であり、そのためにもふだんからの交流は必要だ」と「いざという時に助け合いたいので、多少面倒でもふだんから交流しておいた方が良い」と回答した方の合計が、川崎市では51.9%、多摩区では51.8%であり、交流の必要性を感じる方が5割を越えています。

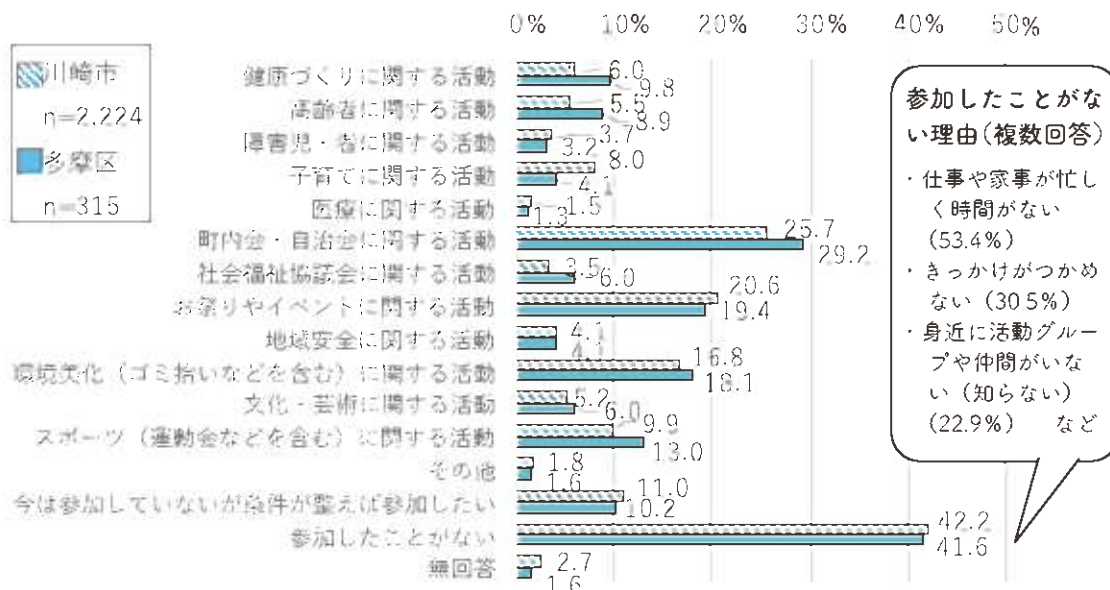


日頃からの交流が大切と考える人が半数程度いるようですね。



◆地域活動やボランティア活動への参加は？（多摩区のデータ）

多摩区では地域活動などに「参加したことがない」が41.6%で最も高く、参加したことがあるものとしては、「町内会・自治会に関する活動」(29.2%)、「お祭りやイベントに関する活動」(19.4%)の割合が高くなっています。



参加したことがない理由(複数回答)

- ・仕事や家事が忙しく時間がない(53.4%)
- ・きっかけがつかめない(30.5%)
- ・身近に活動グループや仲間がいない(知らない)(22.9%) など

「町内会・自治会の活動」、「お祭りやイベント」や「環境美化の活動」が参加のきっかけになっている人もいそうですね。



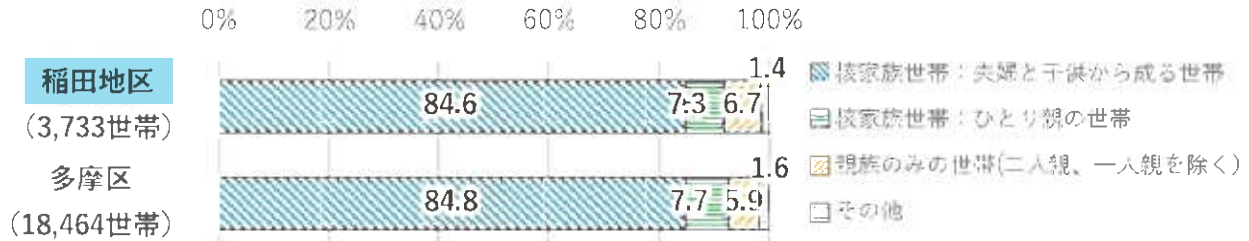
地域活動に参加しやすい工夫が何かできるといいな。



子ども・子育ての状況は？



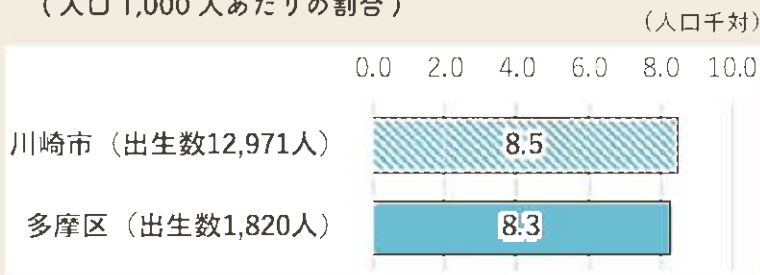
① 子どもが暮らす家庭の状況は？



参考）18歳未満世帯員のいる一般世帯 / 国勢調査 平成 27(2015) 年 川崎市の人口 (1) 第 51-1 表
※「18歳未満世帯員のいる一般世帯」を 100 とした時の各割合

関連する多摩区のデータ

② 1 年間に生まれた赤ちゃんの人数や割合は？ （人口 1,000 人あたりの割合）



参考）川崎市統計書 令和 2 年（2020 年）版
「出 4・死亡・婚姻・離婚数の推移」令和元年データ

核家族で暮らす世帯が多いのかな？

昨年 1 年間で生まれた赤ちゃんはどれくらいいるのかしら？

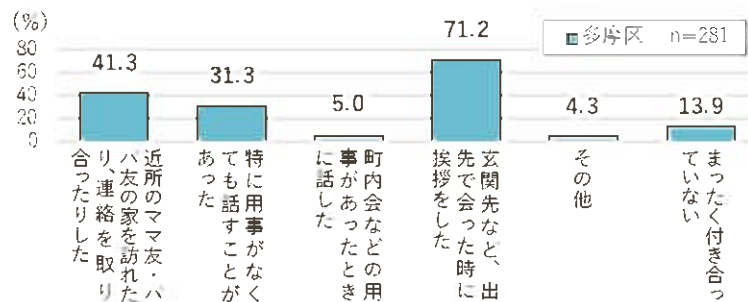
市民アンケート等で寄せられたご意見の紹介



◆ 近所との交流の程度は？（多摩区のデータ）

多摩区内の 0～6 歳の子どもがいる世帯を対象に、直近 1 か月間の近所との交流の程度について聞いたところ、「まったく付き合いがない」と答えた方は 13.9% である一方、「近所のママ友・パパ友の家を訪れたり、連絡を取り合ったりした」と答えた方が 41.3% でした。

普段から挨拶したり、連絡を取り合うなど顔の見える関係を築いていると、いざというとき、心強いですね。



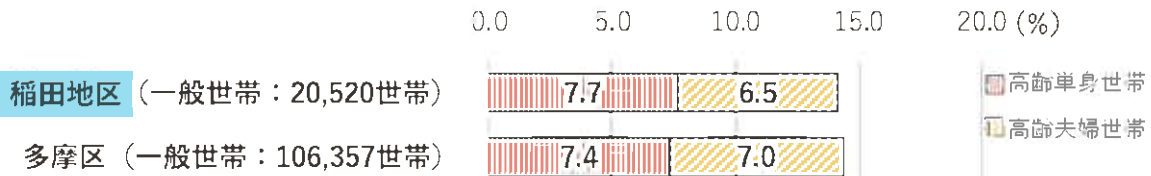
参考）川崎市子ども・若者調査 令和 2 年度
※複数回答 ※市内の 0～6 歳の子どもがいる世帯の保護者を対象に実施



高齢者や障害者等の状況は？



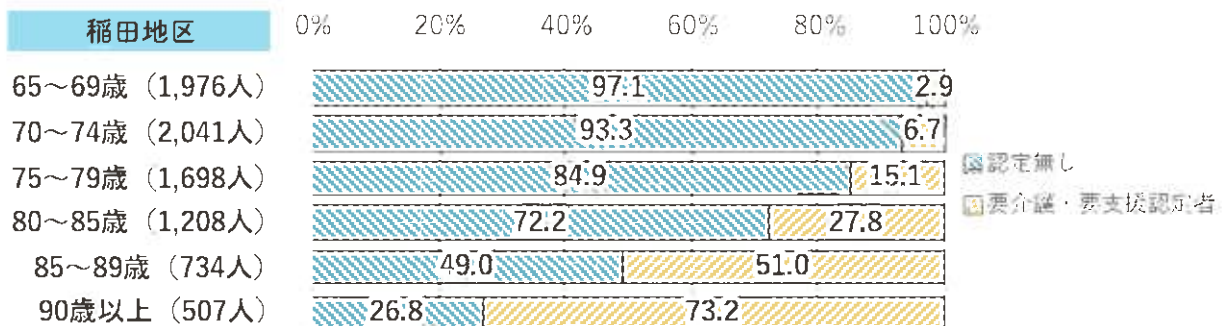
① 高齢者だけの世帯はどれくらい？



参考) 高齢単身世帯・高齢夫婦世帯 / 国勢調査 平成 27(2015) 年 川崎市の人口 (1) 第 52-1 表

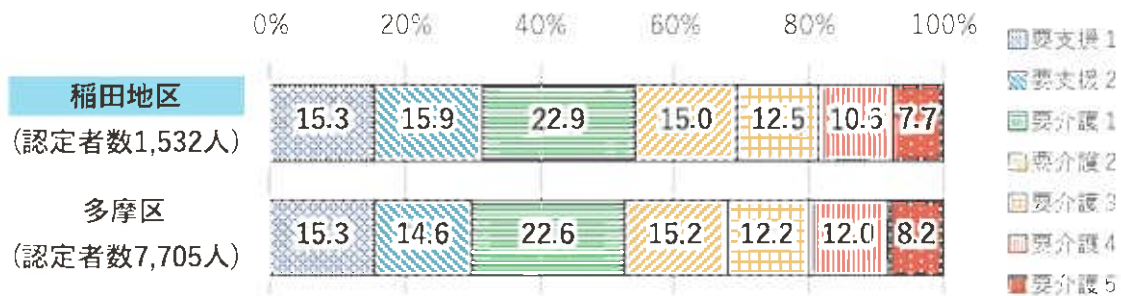
※ 高齢夫婦世帯: 夫が 65 歳以上、妻が 60 歳以上のみの夫婦世帯

② 自立して暮らせる方、ケアが必要な方の割合は？



参考) 介護保険情報 令和 2 年 10 月 1 日

③ 要介護・要支援に認定された方の割合は？



参考) 介護保険情報 令和 2 年 10 月 1 日

関連する多摩区のデータ

④ 障害者に関するデータ

障害者関係	人数(人)
身体障害者数 ※1	5,031
知的障害者数 ※2	1,506
精神障害者保健福祉手帳所持者数 ※3	2,222
自立支援医療(精神通院医療)受給者数 ※4	3,995

参考) 令和 2 年 3 月末

※1: 健康福祉局障害福祉課調べ

※2: 判定のみを受けて療育手帳を所持していない方も含む

※3: 健康福祉局精神保健福祉センター調べ

※4: 健康福祉局国民年金・福祉医療課調べ



周辺では高齢者が増えてきているので、見守り合うようなつながりが地域の中でできるといいなあ。

そういった活動は大切ですね。一方で、高齢者の割合が比較的高くても、要支援や要介護認定者の割合が高いとは限りません。



確かに！元気な高齢者には、いきがい・健康づくりや介護予防の取り組みが大切になりそうですね。いろんな地域活動の担い手としても期待できたり、地域で過ごす時間が長いからこそ、地域づくりの頼もしい存在になる、とも言えるかも？！



高齢者や障害者等の状況は？

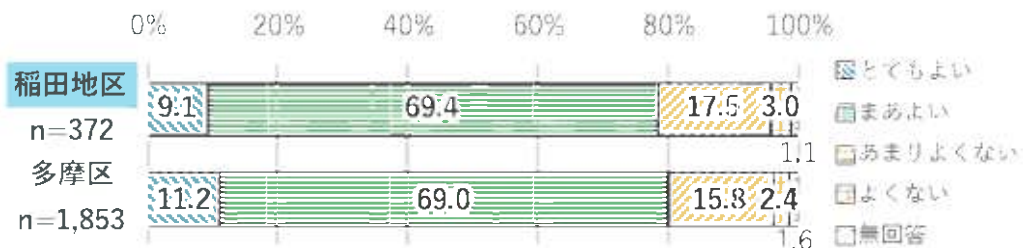
市民アンケート等で 寄せられたご意見の紹介

外出は、健康の維持や介護予防にもつながります。運動する機会が少ない方は、ぜひご近所の散歩から始めてみてはいかがでしょうか。



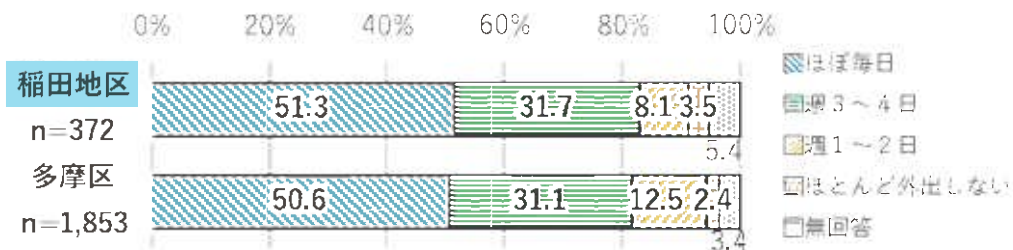
◆高齢者の健康状態は？（稲田地区のデータ）

稲田地区で健康状態について「とてもよい」「まあよい」と回答した方の合計は78.5%でした。



◆1週間に何回出かけるか？（稲田地区のデータ）

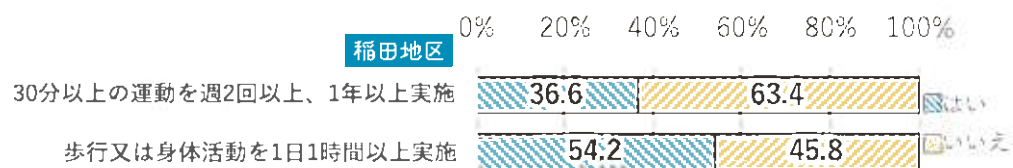
稲田地区で1週間のうち「ほぼ毎日」外出する方は51.3%と、5割を超えていました。



参考）令和元年度 川崎市高齢者実態調査（介護保険の認定を受けていない65歳以上の高齢者への調査）

◆75歳以上の高齢者の運動習慣は？（稲田地区のデータ）

75歳以上の高齢者のうち、「1日30分以上の運動を週2回以上、1年以上実施している」方は36.6%、「歩行または身体活動を1日1時間以上している」方は54.2%となっています。



参考）平成30年度 川崎市後期高齢者健康診断データ

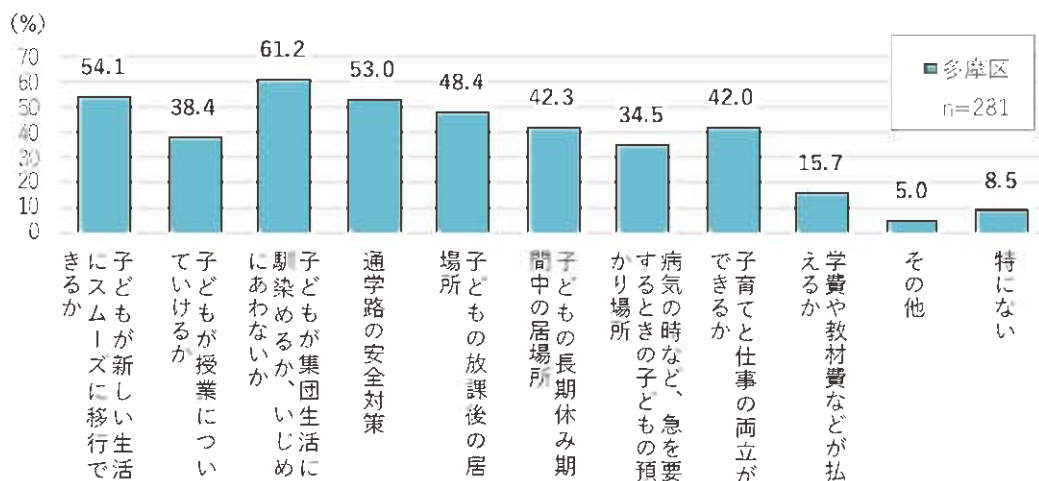
暮らしの主役である「ひと」の思い



様々な人が自分らしく暮らせる環境をみんなで作っていくためには、「まち」の特徴を知るとともに、地域の主役である「ひと」の思いを知ることが大切です。ここでは、そんな「ひと」の思いを知る手がかりとなるアンケート結果をご紹介します。

◆子ども・子育て：小学校入学に向けて不安なことは？（多摩区のデータ）

小学校入学に向けて不安なこととして、「子どもが集団生活に馴染めるか、いじめにあわないか」が61.2%と最も高く、「子どもが新しい生活にスムーズに移行できるか」が54.1%、「通学路の安全対策」が53.0%、「子どもの放課後の居場所」が48.4%、「子どもの長期休み期間中の居場所」が42.3%となっています。



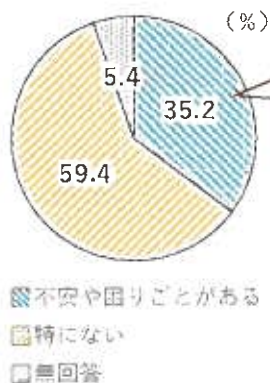
参考) 川崎市子ども・若者調査 令和2年度

※複数回答 ※市内の0～6歳の子どもがいる世帯の保護者を対象に実施

どんな人がどんなことに困っているかをお互いに知ることが、地域づくりの第一歩ですね。

◆高齢者：不安や困りごとは？（稲田地区のデータ）

「不安や困りごとがある」人が3割を超えています。



不安や困りごとの内容（複数回答）

- ・身体が衰えて日常生活に不都合があること (11.0%)
- ・困りごとを相談する場所がよくわからないこと (9.7%)
- ・発作など緊急時に救急車を呼ぶこと (7.5%)
- ・気軽な話し相手がないこと (7.0%)
- ・友人や地域の人との交流が減って孤独に感じる (6.7%)
- ・一人で外出すること (5.6%)
- ・毎日の食事のため、買い物や調理をすること (5.1%)
- ・金銭管理や財産保全に関する (4.8%)

参考) 令和元年度 川崎市高齢者実態調査 (介護保険の認定を受けていない65歳以上の高齢者への調査)

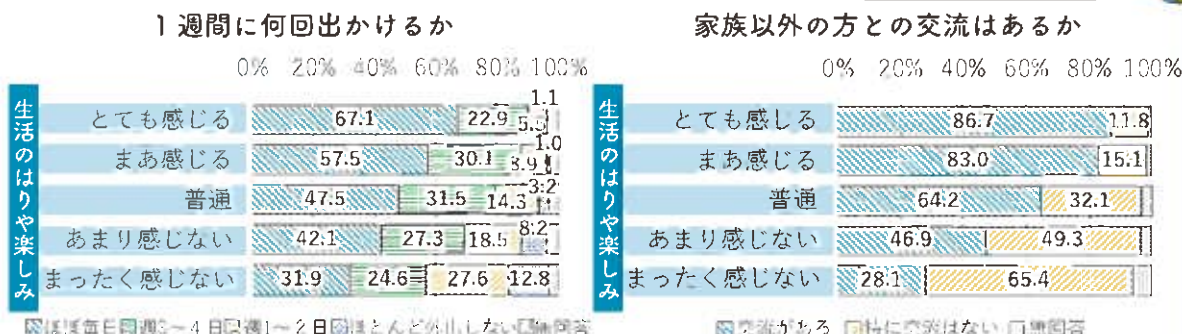
暮らしの主役である「ひと」の思い



◆高齢者：生活に「はり」や「楽しみ」を感じるコツは？（川崎市のデータ）

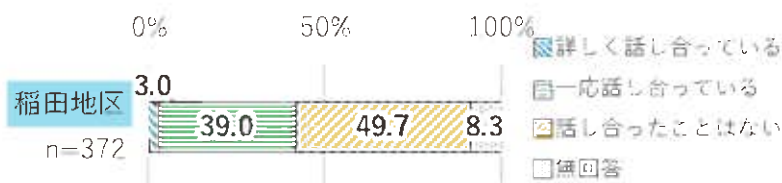
元気に暮らしている 65 歳以上の方にアンケート調査をしたところ、生活に「はり」や「楽しみ」を感じている人ほど、「外出頻度が高く」、「家族以外の方と交流する」の割合が高い結果となっています。

外出や交流が生活の充実につながるみたいだね。地域の交流の場や機会を大切にしていきたいな。



◆高齢者：終末期について家族と話し合っているか？（稲田地区のデータ）

「詳しく話し合っている」「一応話し合っている」と回答した方の合計は 42.0% となっており、話し合っている人が 4 割を超えています。



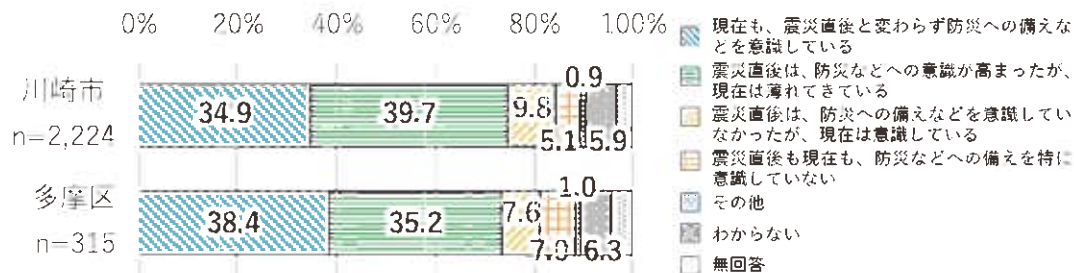
できれば住み慣れた自宅で最期を迎えたいから、家族や周りの人たちに相談してみようかしら。



参考：令和元年度 川崎市高齢者実態調査（介護保険の認定を受けていない 65 歳以上の高齢者への調査）

◆防災：東日本大震災以降の防災意識は？（川崎市と多摩区のデータ）

多摩区では、「現在も、震災直後と変わらず防災への備えなどを意識している」の割合が 38.4% で最も高くなっています。



災害はいつ起こるか分からないので、備えをしておきたいな。

参考：第 5 回川崎市地域福祉実態調査（令和元年度調査）

